

ノウハウ伝授、交流スペース、協働事業…

女性起業家 応援します

観葉植物が飾られ、お菓子や飲み物が用意された部屋。五月末、六人の女性が和気あいあいと意見を交わしていた。六人はエッセサロンや塾などの経営者。ほとんどが起業して数年以内。「協働して事業ができるか」が会話の中心だ。

ここは、名古屋市中区に四月にオープンした交流スペース「Wits（ウィッツ）」。愛知、岐阜、三重の三県在住の女性が、起業や事業についての情報を共有し、家庭との両立といった悩みにも一緒に知恵を絞る。開設した社会保険労務士の伊藤麻美さん(四八)は「働く場所や時間がある程度、自分で決められる『起業』という働き方は女性に向いている」と力を込める。



伊藤さん自身、社労士の事務所を開く際「どこに何を聞いたらいいのかわからず途方に暮れた」ことがある。起業を目指す女性たちから「相談窓口にいるのは男性ばかりで、家庭との両立について理解してもらえない」などの相談を受け、支援を始めた。

会員は、会費が月額五千四百円と七千五百六十円の二種類。種類によって異なるが、社労士や税理士、先輩起業家らへの経営相談、プロジェクトの企画会議や勉強会、ビジネスマッチングを図る会への参加などのサポートを受けられる。交流スペースは自由に使い、壁に紙を貼って情報を発信することもできる。

現在、会員はエッセサロンやホームページ制作会社の経営者など、三十一五十代を中心に約二十人。会員で、ビワの葉を使ったせっけんなどを製造販売する愛知県南知多町の林浩子さん(五五)は「人脈が増えてビジ

両立など「悩み共有できる」

女性活躍が推進される中、女性の起業家を支援する民間の活動が広がっている。会社を設立し継続していくノウハウを伝えたり、起業家同士が交流して情報交換する場を設けたりして後押しする。起業家からは「業界が違っても女性経営者同士、悩みを共有できる」と好評だ。

(花井康子)

東京商工リサーチによると、同社に情報がある全国297万社で、女性社長は37万1232人(2016年末現在)。12.5%を占め、調査を開始した10年の1.7倍で過去最多だ。同社は「意欲のある娘に社長を譲る中小企業が増えたことや、自治体や金融機関などが起業支援の体制を整えたことなどが要因」と分析する。

ただ、事業の継続には壁もある。エメラルド倶楽部の代表理事、菅原智美さん(48)は多くの女性経営者が直面する問題として「人材の確保」と「資金調達」を挙げる。

起業する女性には、いったん退職して子育てが一段落した40代が

多い。しかし、キャリアの中断により、責任の大きな仕事をしたり部下を持ったりする経験が少なく、組織づくりが苦手な人も少なくないという。起業後、後継者や「右腕」を育てられないことも多い。多額の借り入れに抵抗を感じ、事業拡大の好機を逃す例もある。

一方で、男性に比べ「好きなことをビジネスにする」人が多く、もうけが薄くても続けられるという強みも。菅原さんは「女性は消費者目線で、身近なことでビジネスを展開するのが得意。成功した女性社長のロールモデルが増えれば、より多くの女性の参考になる」と話している。

「人材確保」「資金調達」が苦手

暮らし歳時記



●ハマナスの実

文・広田千悦子
写真・広田行正

青々としていた栗の木の実も色づきはじめ、実りの季節がやってきました。

どういつわけか今年は、故郷の北海道ではおなじみのハマナスの実が無性に恋しくて、分けていただけたところを探してみました。静岡のハマナス園さんが、みずみずしい朱色の実をたくさん届けてくださいました。

食べてしまおう前に作ろうと考えていたのはハマナスの実の数珠です。東北の一部ではお盆にお供えし、アイヌ民族のこどもたちも作っていたもの。似たような習わしはつながっていたのだろつか、と思いは巡ります。何げなく母にその話をする。と、亡き父が幼い頃、実の数珠を作り、おなかのすく、つまんでおやつにしたと話していたこと。思いがけず身近なことだ驚きました。

ピューレにして作るジャムは滋養たっぷり。小さくカットして天日干しにすれば、香り豊かなローズヒップティーに。知るはずのない幼き父の姿を思い浮かべながら、ハマナスの実のお茶をいただいています。

マヨネーズ活用レシピ

調理時間 15分
キャベツと
パイナップルの
コールスロー

★1人分156kcal、塩分0.8g

【主な材料・2人分】キャベツ160g、タマネギ1/4個、キュウリ1/2本、パイナップル缶詰(スライス)2枚、マヨネーズ大さじ1½、クルミ(無塩)10g

【作り方】①キャベツ、キュウリは千切り、タマネギは薄切りにし、合わせて塩小さじ¼をふって約10分おく。しんなりしたら、水気を絞る②パイナップルは3cm大に切る。クルミはフライパンで軽くからいりをし、粗く刻む③ボウルにマヨネーズ、酢小さじ1、塩・こしょう各少々を合わせ、キャベツ、タマネギ、キュウリ、パイナップルを加えて混ぜ、クルミを散らす。

協力・ベターホームのお料理教室

くらしの作文

2018.9.3

十月が来ると百一歳になる母は四年ほど前、デパートの物産展の帰りに転倒し、大腿骨にひびが入り入院。リハビリ病院へ転院、三年前には「お元気でですね」と言われるほど回復し、今の施設にお世話になっています。

先日、その施設で夏祭りが行われました。母は、空色の地に、青と薄紅色の花柄の浴衣に、ピンクの帯を締め、少し照れながら「いい柄で、帯によく合っている」とうれしそうでした。

会議室とロビーを合わせた会場はちやうちが飾られ、輪投げ、綿菓子などの模擬店が並び、まさに夏祭り。ドンドンドンドンとおなかに

夏祭り

田中 文子 (名古屋市瑞穂区=主婦・77歳)

響く太鼓の周りを、車いすを押されてではありませんが、晴れやかにうちわをかざし、手拍子で進む母や皆さんを眺め、私も子どものころを思い出していました。

母の胸にふと去来したのは、私たち三人の子が行った夏祭りか、それとも満天の星の下、幼いころの郷里の夏祭りだったのでしょうか。

法被や浴衣で大汗をかき、一生懸命盛り上げてくださったスタッフの皆さん、本当にありがとうございます。

戦後の大変な時代を過ごし、大正、昭和、平成と生き抜いた母には、「お母さん、新しい年号の夏祭りにも元気で参加しようね」と言います。

※アナウンサーの音読が東海テレビ・ホームページで聴けます。

生活

家族 日月
健康 シニア
介護 シニア
子育て 衣食住

あすの紙面

セメント注入で骨を復元
負担少なく寝たきり防止も



くらし調査隊

052(221)0999 平日午前10時～午後1時
chousa@chunichi.co.jp FAX 052(222)5284